

## 論述ブースト No.2

## 医師志望の動機を"医学の言葉"で書く —— 志望理由書を感じ動談から論証へ

🎯 **今日のゴール**：「祖父が病気で助けられた」「人の役に立ちたい」という感動談から脱して、①自分が経験した具体的な問題意識 → ②医学・医療の言葉で定義 → ③それを解決するために医師として何をするか という論証の構造で志望理由を書ける力を身につける。

### 🌟 この授業の問い

1. 「感動談」と「論証」はどう違うか？採点者が求めているのはどちらか？
2. 「医師になりたい理由」を"医学の言葉"で言い換えるとはどういうことか？
3. 志望理由書の「問題意識→医師としての解決策」という構造はなぜ説得力があるのか？

### 💡 感動談 vs 論証：採点者の視点

❌ **感動談（採点者が飽き飽きしている典型例）** 「祖父が病気になったとき、担当の先生が親身に接してくださり、その姿に感動して医師を目指しました。私も患者さんに寄り添える医師になりたいです。」

✅ **論証型（採点者が評価する構造）** 「祖父の入院を通じて、**高齢患者における多剤服用（ポリファーマシー）の問題**を身近に経験した。薬の相互作用と転倒リスクの増大を目の当たりにし、**老年医学と在宅医療の分野**において、薬剤の適正化と在宅チームとの連携ができる医師が不足していることを認識した。医師として、地域包括ケアの中で老年医学を実践し、高齢者が薬害なく在宅生活を送れる体制を構築することが私の目標である。」

💡 **ワンポイント：「医学の言葉」が信頼性を生む** 「ポリファーマシー」「老年医学」「地域包括ケア」など医学・医療政策の用語を正確に使うことで、「この受験生は医学を本気で学ぼうとしている」という印象を採点者に与える。用語の意味を正確に理解した上で使うことが前提。

## 採点者の視点

採点者はここを見ている —— 志望理由書・医師志望動機で合格答案は  
こういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

志望理由書・医師志望動機では、*志望動機を論証に変える根拠*が答案の質を大きく左右します。

## ② 志望理由書・医師志望動機で採点者が見ているポイント

「個人的エピソードを医学的課題に接続した志望理由」が採点者に「動機の根拠がある」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所